

【東日本大震災の被災地見舞ルポ】

東日本大震災、気仙沼、陸前高田、石巻

カレーライス1,000人2人旅

2011年3月24日
常議員 遠山 悦男

3月11日(金)の地震から13日過ぎた24日朝2時30分過ぎ、私と間さん(備あいだ 間一彰)と2人で3月とは思えない車の窓が凍る朝、1,000人分のカレーライス、ホツカイ口、野菜、米、他約800キロ、多くの皆さんの善意の送り物を積んで、陸前高田、気仙沼、石巻を訪ね、学校や寺、避難アパート等6ヶ所を訪ねた。走行900キロ20時間の旅、避難所の皆さんには、大変喜ばれた。私達は寒々とした白い月に照らされながら、高速道を一路北へ向かう。秋葉警察署は敏速に特別許可証を出してくれた。東北道はマイナス6度だった、安達太良サービスタリアには約50台の静岡県消防団の消防車が赤ランプを点滅駐車していた。異様な雰囲気と力強さ、まさにここは戦場の入口だったサービスタリアを出ると東の空が異様な赤い朝焼け、福島第一原発の方だ。原発の無事を祈る。仙台辺りの村や町は見た所何事もなかった様な平和な朝に見えた。田んぼの底が白く霜が降りていた。今朝6時から一般車両も通行可能との事だった。7時過ぎ一ノ関で高速を下りる。一ノ関

は思ったより大きな町だった。幸い町は見たとこる地震の被害はわからなかった。ただ、ガソリンスタンドの前は朝5時頃から車が給油のために並ぶ。8時開店1キロ2キロ何処までも車がつながっていて私は驚いた。気仙沼まで道は何事もなかった。しかも道路工事もなくブロック塀も墓の倒壊もなかった。気仙沼の町に7時に入る。町は何事もなかった様に見える。市役所総務課を訪ねると赤川課長が対応してくれた。役所は戦場の様に大変だった。尋ね互いの安否を探す紙が壁一面に張ってあった。幸い水道は出ていた。避難所へは案内してくれる事になった。市役所は高台にあった。坂を下りた所、道から1.5メートル位の所まで水が来たそう。私はここに何かモニメントを作ると良いと話すと彼は市長に後で話すとあった。私のお願いで私の弟、勇が知っている気仙沼三菱千田社長を最初に訪ねる。大変大きな会社だった。本社は浸水1メートル位建物等は大丈夫だが電気水道ガスは駄目、会社は大騒ぎだった。三方所ある店のうち二店舗流された。しかし社長はこんな事では負けられないと大変元気であった。驚いたことに千田さんと

節電にご協力くださいー！

級生夫婦と一晩泊まり力二食べ放題の旅だった。港には300トン400トン、マグロ船が30艘も並んでいた。とても静かな場所であった。魚市場も大変な人出であった。私は同年1ヶ月早い昭和13年1月生まれだった。お互いに頑張ろうと励まして別れる。私は普談寺から預かった米10キロ送る、喜ばれた。

私達は河口から67キロ上流の浄念寺を訪ねる。新しい寺だった。50、60人の年配の人たちがいた。ボランティアか、感じの良い女性が何人かを迎えてくれた。1000人分のカレーライス、ホツカイ口を送る。隣の公民館にも送る。今日は天気は良くかなり大変暖かくなるとの。その後大きなアパートを訪ねる。そこには湯布院から来た自衛隊の皆さんがいた。感じの良い隊員であった。川を下り岬の方へ向かう細いガレキの道を通る。車がピンポン玉の様にあった。300トンもある大きな遠洋マグロ船が川岸に乗り上がっていた。よくこんな山の方まで流されてきた、驚きたまげた。更に下るこの辺りは11日の夜テレビで放映された火災の場所だ。大きな船が丸焼けだった。辺りは家のガレキと焼け跡ばかり、湾の向こうに町の中心地がよく見える場所だ。高台にある、気仙沼プラザホテルが良く見える。2年半前私は結の同

どうしても陸前高田に行きたくて車を走らせる。海岸道路を20キロ程だ。途中の海岸の村、村、は壊滅的だった。家、家族、車、船、思い出、を失った人々に声も掛けられない状態だった。余りにも美しい海岸が悲しい。神社の真ん中に車が引つかかっていた。陸前高田の入口で菅野さんという人が1人で後片付けをしていた。話を聞くとこの辺りは田んぼだった。流された家や車で埋まり自分の家は何処に流されたかわからないと話す。突然海の方が盛り上がり凄波が見えた。家族みんなで裏山の山へ駆け上がり助かる。凄く急な杉林の斜面だった。杉の木20メートル位の所に浮き玉が下がっていた。菅野さんに村の人皆さんと食べて1000人分のカレーライスを渡す。菅野さんの家は600年もここで住む歴史ある農家だそう。橋が2本流されていた。上流の橋を渡り陸前高田の町に入る。町は考えられない程のガレキと車の山、人影も無いゴーストタウンだ。永い歴史の町が一瞬に消えた。

陸前高田にあった7万本の海岸の松の木が1本残して全部流されたそう。凄く津波が町を襲う。未だ陸前高田では何千人もの人が行方不明である。悲惨な事だ。陸前高田から山の道、国道456号線を走り登米市を通り三陸自動車道を約2時間走り、4時北上川を渡り石巻市へ入る。石巻は大きな町だ。夕方、

外環状を走る車も多く渋滞していた。私達は間さんの知り合いの水産加工会社社長を訪れる。間さんは17日にも来ている。(その時女房はラーメン等を間さんに託す)途中トンネルを抜け港の方に向かう物凄い魚の異臭がする。家々はそんなに壊れていないが、流されてきたガレキと車、凄く状態だ。社長は温厚な素晴らしい人だった。従業員30人は社長の早い判断で全員無事だったそう。退社が5分遅れたら犠牲者が出ていた可能性が高かった。運もあるがトツプの決断の速さが社員の命を救った。でも78の人が家を流されたそう。社長は養魚場イカダ船、年配の魚民に船が買えるのか？その後海産物の入荷ができるのか、それより一番心配な事は放射能汚染と言った。

石巻市立万石浦中学を訪問する。約400人の被災者がいた。4時を過ぎ寒くなった。校庭に紅梅が並んで美しく咲いていた。10人程の人が待っていてくれた。最初小学生と65歳以上の人にカレーライスをと放送をする。温かいご飯は久しぶり大きな歓声上がる。子供も大人も大変喜んでくれた。私が社長の家へ送ったカレーライス100人分を足りないとい社長は家に取りに行き持って来た。これから大人、中学生もと放送で大変な騒ぎになる。本当に来たかいたがみんなも気持ちの良い人ばかりだった。特に私が驚いた人は阿部さんという市会議員だった。人の倍も働き笑顔と気配りの優しい人だった。帰る時走って校門まで送りに来た。しかも案内人を石巻の郊外まで付けてくれた。石巻の町は暗く寒く



カレーに並ぶ人達400人に配る。(気仙沼石巻市万石浦中学)



カレーに喜んでお礼を言う5・6年生の児童達。いや本当に来てよかった。(石巻市)

なつた。車の中で間さんと2人疲れたが2人の顔は満足度120%。今日一日様々な人に出会った。私も後どれ位生きるのか分からないが、一生忘れられない一日になった。人の一生なんて運で変わる、儂いものだ。

五泉に着くと凄く雪が降っていた。家に11時に着く。今日一日約20時間走行約900キロ、73歳の爺、私もまだ頑張れるし頑張ります。国道403号線菜の花、今年が遅いが間もなく満開になる。沢山の人の心を癒してくれると思います。皆さん頑張りましょう。

*間さんは今回の他、相馬、二本松、石巻等5回新津の皆さんの心温かい支援受け、又従業員一同の支援を得て実行されました。間さん家族の皆さんありがとう。